

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.25 2015.7.8
TEL71-2466

安曇野市制施行10周年記念

第9回安曇野市公民館大会

5月17日、市公民館大会が穂高公民館講堂で開催され、公民館関係者をはじめ315人が参加した。

大会の中で、公民館活動推進功労者の表彰式が行われた。受賞者は次のとおり。

(敬称略)

- ▼前明科公民館長 浅見 郁子
- ▼前大口沢地区公民館主事 市川 千尋



受賞した浅見 郁子さん

また、昨年より開始した地区公民館報の表彰が行われた。受賞した公民館は次のとおり。

- ▼最優秀賞 豊里地区公民館
- ▼優秀賞 柏原地区公民館
- 野沢地区公民館

豊里地区公民館は昨年も最優秀賞を受賞した。

記事には、子どもが参加した行事や健康体操、スポーツ大会など様々な活動の様子を掲載し、紙面の充実を図っていた。

入賞した公民館報は大会中、揭示され、多くの人が熱心に見入っていた。

今回は、さらに多くの公民館に応募してもらい、それぞれの活動や情報を市全体に広めてほしい。

事例発表では、光地区公民館が発表を行い、光菊花クラブの誕生と歩みについて過去を振り返りながら現在の活動の様子を伝えた。

◆記念講演◆



飯田市公民館副館長の木下巨一さんを講師に迎え、「自治公民館の活動から、信州公民館の原点を考える」という演題で、講演会が行われた。

自治公民館とは、安曇野市という地区公民館のことだが、事例発表を行った光地区公民館や他地区の活動を例に挙げ、わかりやすく解説していただいた。

伝統文化の継承や日常的交流からの取り組み、ソーシャル・キャピタルの大切さ、住民自治の考え方は、人口減少、高齢化、生活様式の変遷など、とかく課題の多い公民館活動のガイドラインになったのではないかと思います。「公民館活動は

「自治公民館の活動から、信州公民館の原点を考える」 飯田市公民館 木下 巨一 副館長の講演から



観客のいない芝居で、住民一人一人が主役、脇役、演出家である。公民館には一人も観客はいない」という話も公民館の基本的概念を表しており、人と人とのつながりや絆がいかに大切かを再認識させられた。

印象に残ったのは「公民館活動に従事した者はどんな職場・職種でも応用が利く」という言葉。自ら課題を分析し、事業を企画・運営することで、企画力、判断力、思いやり、おもてなしの心などが身につく、応用力が培われると思う。それらを身につけながら、地域の皆さんと共に地域課題に取り組み、地域力を向上させていきたい。

上高地を訪ねて



三郷公民館は6月10日、自然・歴史探訪の「ふるさと講座」で、上高地の散策とトレッキングの講座を開いた。

天下の名勝で身近な観光地も、今はマイカー規制で、気ままに訪れる機会も少なくなった。この講座には50代から80代の男女39人が参加し、歩きながら学んだ。

大正池の前に降り立ち、田代池、ウエストーン碑に向けてトレッキングを開始した。昼食後、河童橋を渡って、小梨平散策組と、健脚2万歩コースの明神池組に分かれトレッキングを再開した。前々



みんなで試食中

行事食で伝達料理

日の梅雨入り宣言も、どこ吹く風の快晴の下、自家用車の運転から離れ、普段の生活の喧騒からも解放されて、大自然の懐にたっぷり浸った。途中、講師の木船清先生と柴野武夫先生に、上高地の地形・地質や100種を超える植物の話聞いて、学びながら歩いた。火山がもたらした雄大な秘峡が、自然のままの美しい景観を保つのは、環境管理や国立公園の保護の恩恵に浴したたままものである。(山楽子)

ほりがね

堀金公民館は5月29日、同館調理室で「伝達料理講習会」を開いた。松本広域調理師会の広瀬末則さんと、安曇野市調理師会の山口高志さんを講師に、地区公民館9館から女性部の役員30人余りが出席した。

「行事食と涼しげな料理」をテーマに講師の手ほどきを受けながら、夏野菜のテリーヌとして「アスパラ豆腐」、その他「肉シユウマイ」と「ちまき中華風」、デザートに「ミルクココアゼリー」を作った。料理は、レシピに従い出来上がっていき、「味」は火加減、さじ加減で良い塩梅にグルーブごとに味わいが出ていて、「シユウマイ」の皮の包み方、「ちまき」の竹の皮の包み方や縛り方で趣の違いが表われていた。料理を習得するだけではなく、「ちまき」は旧暦の「子どもの日」に作っていたことも学んだ。季節の歳時記に「思い」を寄せ、地域に伝わる行事食の「心」を学びながら、家庭の食と文化の歴史を考える機会となった。

貧困国の子どもたちの涙

出席した女性部の役員は、これから地区公民館で伝達料理として講習会を開き、「行事食」を通して食の精神と技を伝えながら、それぞれの家庭に地域の伝統行事や人類の歴史の重みも届けていく。(山楽子)

あかしな

明科いいまちサロンの5月の集いが、26日に行われ、黒豆寿司のおやつを食べながら、松本市を拠点に活動している「とりのはねスペシャルBAND」の美しい



聴き入る参加者

ハーモニーに50人が耳を傾けた。歌の間(ま)にはさむ講師の鳥羽さんのトークでは、自身が参加する教育支援団体の「曹洞宗国際ボランティア会」活動の体験から、ミヤンマー(旧ビルマ)の子どもの学校生活の一部分が紹介された。122人に対して1冊の教科書しかなく、輪読の授業になると、全員が読み終わって、ようやく次の授業が始まることになる。貧困から抜け出せない国がアジアにまだあることを知って、涙を拭う人もいた。また、手話をしながらの歌や、「人生60歳から」を、お座敷小唄や炭坑節などで替え歌にして楽しく合唱した。



絵: 加々美 豊
花: キンギョソウ

青木花見公民館 女性部

ガーデニング講習会



親子で参加、楽しい寄せ植え体験！

5月31日、午前9時半、寺島裕美さん(寺島生花店)を講師に迎え始まった。親子参加歓迎で、子どもを含めて19人が参加した。用意された8種類の花の中から各自4つを選び、公民館前の広場で寄せ植えをした。

最初に寺島さんから「『高い高い、低い低い』の型や、『オールラウンド』などの組み合わせがあります」など、解説がされ、見本の寄せ植えが披露された。

作品が出来上がると、寺島さんから「皆さんとてもきれいなデザインですね。とても上手にできました」と言葉があり「根が安定するまで朝晩、日陰で水やりをしてください。長持ちして秋まで楽しめます」と注意事項の説明があった。

参加者は「玄関に飾って楽しみたい」「初めて寄せ植えをしたが楽しかった」「かわいらしくできた」など感想を語っていた。



古きを尋ねて

安曇野市有形文化財

「観経曼陀羅図」

⑱ 給然寺(明科宮本)

給然寺は、浄土宗の寺院で、江戸時代前期の明暦2年(1656)明科光の宗林寺第四世大誉義全上人が隠居して草庵を結んだのがはじめであると古い記録に記されている。

「観経曼陀羅」は、浄土宗の教義のよりどころの經典の一つである『観無量寿経』(略して『観経』)を絵画化したもので、中国がその発祥の地といわれており、日本のような軸装した絵画はないが、敦煌の莫高窟の壁画に見ることができ。日本では奈良時代に作られた奈良県の当麻寺にある『当麻曼

陀羅」が最古のものである。

インドの王舎城(おうしゃじょう)で起こった「王舎城の悲劇」といわれる物語、すなわち、阿闍世(あじやせ)王子は提婆達多(だいただた)に唆され、父頻婆娑羅(ひんばしやら)国王の命を奪おうと幽閉し、それを阻止しようとした母、韋提希夫人(いだいけぶにん)までも幽閉する。嘆く韋提希夫人がお釈迦様に安楽な極楽世界についての説法を求め、それに応じた釈迦が説かれた極楽浄土を観る13の方法や阿弥陀如来を中心とした極楽の様子などが左の下から時計回りに描かれている。給然寺所蔵の曼陀羅もこの様式のもので、製作年代ははっきりとはしないが、製作時の浄財寄進者の戒名が書かれてあることなどを考慮すると、おそらく江戸時代に作ら

れたと思われる。日本では鎌倉時代以降、この図が盛んに書写されるようになり、それ以降、この曼陀羅に描かれた物語を紙芝居のように絵解きをしながら浄土教の布教をしたことなどから全国に広まり、現在も多くの浄土宗系の寺院に伝えられている。



給然寺でも、年1回の一般公開と併せて絵解きを11月23日に行っている。

私は一生懸命



堀金地域人権教育指導員 亀井智泉さん(堀金下堀)

何故、人権教育なのか。その出会いは、悲しい出来事から始まる。

隠している様子もないが、「思い」を乗り越えたのか、悲しいそぶりは見せない。幼くして亡くした我が子の闘病記録「陽だまりの病室で」を上梓して自分を見つめ、人々に「思い」を問いかけている。人権を語る前に「命」があり「家族」があり「社会」があつて「福祉」がある。「福祉は高齢者だけのものではない」と松本大学の非常勤講師として「生活福祉論」を受け持っている。重症心身障害児の家

族に寄り添う「長野子ども療育推進サークル・ゆうテラス」の代表を務め、医療界や行政にも働きかける。日本新生児看護学会会員・長野県医療審議委員でもある。一方、堀金小学校の「おはなしたからばこ」や図書館の「絵本わくわく講座」で物語の夢の世界を語る。強い信念に裏付けされた主張と行動とは別の世界にいるような穏やかさで、「まだ子どもに働かされている」と言う。本当は「活かされている」ことを知る爽やかな笑顔振りまいて。

地区公民館だより

等々力町地区公民館(穂高)

等々力町地区は、世帯数878戸(区加入数530戸)、人口2050人で9つの集落からなっている。

当公民館の組織は、公民館長、副公民館長、主事の三役、運動会や球技大会などの企画・運営を行う体育部、健康福祉や納涼祭などの交流事業の企画・運営を行う教養部、健康づくりに関する研修や事業を行う女性部、子どもたちと区民との交流事業を行う育成部で構成されている。地区の主な行事としては区民対抗球技大会や七夕飾り、饅頭作り、納涼祭、敬老会、区民運動会、市民運動会、餅つき、しめ縄作り、三九郎、やしよま作り、6年生を送る会などがある。

地区の現状としては、人口は減少傾向にあり、65歳以上の人口は増加、15歳以下は減少傾向で平均年齢も上がってきている。一般にいわれている少子高齢化は、この地区も例外ではない。しかし、明るい兆しとして就学前人口は増加している。このような状況を踏まえ公民館としては、行事の内容をより区民が参加しやすいように見直しを図っている。

区民球技大会や区民運動会で

は、高齢化や人口の減少で選手が揃わず参加できない地区がでてきているため、打開策として参加ルールの変更や誰でも気軽に参加できる種目、内容の検討を行っている。敬老会は、71歳以上のお年寄りを招き、昼食を食べながら、歌謡ショーやカラオケなどで楽しんでいただく交流事業である。こちらにも女性部の皆さんが手作りの料理を振る舞うなど、心を込めた活動を行っている。今後とも多くの区民の方に参加していただけるような企画を考えていきたい。

(等々力町地区公民館主事 宇留賀 誠)



納涼祭のにぎわい(平成26年度)

グループ紹介

あいずみの会(豊科)

毎週月曜日の午前中、豊科ささえあいセンター「にじ」第1会議室に集まって、ロッカーからお琴を出して並べ、練習をする。

発足からすでに20年以上、現在のメンバーは8人、細田敬子さんの掛け声で息の合った演奏を目指します。

もともと琴の手習いのあった5人と、あいずみの会に入ってから始めた3人、二つのパートに分かれて「昴」「ゴンドラの歌」「浜千鳥」など次々に奏でていく。琴は全て寄付で集め、自分たちもボランティアで市内各所へ演奏に出かける。地区社協での行事や、デイサービスセンターなどの福祉施設へ、季節に合った演奏を届けている。

桜の季節には、桜の木の下で「お花見コンサート」も行い、地域の方が毎年楽しみにしているという。一週間のスタートが琴の演



練習の風景

奏で、「音楽はいいんだよね、手も動かして、口も動かすから最大の認知症予防になる」と話し、毎週の練習を楽しみにしている皆さん。琴の音色には、本当に心が癒される。琴に触れてみたい、という体験も受け付け、会員も常に募集している。また、市内どこへでも依頼があれば演奏に出かける。問い合わせは豊科ささえあいセンター「にじ」

大月 電話72・3013

櫻

本紙記事中の「青木花見」は、アオケミと読む。

『穂高町誌 第二巻』を調べると、「乳房川(穂高川)と高瀬川の成す氾濫原に位置するため、村落全体が低湿地で地下水が高く、かつては各所に湧水を見たという。

従って『あおけみ』は『あわけみ』の語源からきたもので、けみ(湿地)を付して、湿地の村という意味で青木花見村の村名が生まれたものと思う。」との解説があった。地区には深い歴史が宿る。

(N・N)